

事務事業評価シート（１／２）

評価年度平成30年度進捗区分2次評価

所属0001231510 子ども発達支援課施設管理係

事務事業02920（仮称）子ども発達支援センター整備事業

所属長名都築 里美

担当者古居 英剛

電話番号0566-77-7795

【基本情報】

計画次数	02 第8次安城市総合計画				
5 Kの分類	005 こども				
項目（施策）	001 17子育て				
施策の方針	006 子ども発達支援センター				
事務事業	006 （仮称）子ども発達支援センター整備事業				
事業期間	平成27年度～平成30年度	4年間			
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	普通建設事業費
健幸事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	安城市子ども・子育て支援事業計画、安城市障害者福祉計画				
備考	平成30年7月に子ども発達支援センター（あんステップ）を開所し、平成30年度に事業を終了します。				

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある子どもや親が
目的	相談、発達支援、療育、通園などのサービスが一元化され利用しやすくなります。
手段	療育センター、サルビア学園の施設を集約、併せて保健センター、教育センター、社会福祉会館の機能の一部を統合します。
事務内容	外構工事の施工、看板及び施設案内標識の設置。職員駐車場の整備、庁用車・初度備品等の調達。やまびこルーム及びサルビア学園の移転。

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト	事業費	988,544	77,348	0
	国庫支出金	85,540	0	0
	県支出金	630,000	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	260,404	73,568	0
	人件費計	12,600	3,780	0
	正規（人）	2.00	0.60	0.00
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	工事発注、契約。各種事業の実施内容の確定。	外構工事完了。職員駐車場・初度備品等運営環境の整備。サルビア学園、やまびこルームの移転。	

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02920 (仮称) 子ども発達支援センター整備事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
整備進捗率	%	94.00 94.00	100.00 100.00	0.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
	2		国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
	3		国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
理由		児童発達支援センターで相談支援事業を実施します			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
	2		社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
	3		市民ニーズはない又は不明である		
理由		早期療養が必要な子どもは一定数存在します			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
	2		目標を下回る進捗状況である		
	3		進捗はかなり遅れている		
理由		計画どおり施設整備工事を完了しました			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
	2		事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
	3		事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
理由		旧中央図書館である既存施設の改修計画としました			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
	2		環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
	3		環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由		既存施設を集約し一か所で効率的に事業を実施します			

【1次評価結果】	
事業の方向性	休止・廃止・終了
1次コメント (400文字)	外構工事の完了、職員駐車場の整備、初年度備品の設置など、事業運営のための環境整備を行い、療育センター及びサルビア学園が移転、平成30年7月17日に子ども発達支援センターあんステップを開所しました。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1 / 2）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

所属長名 都築 里美
担当者 古居 英剛
電話番号 77-7795

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	007	子ども発達支援センター施設管理事業			
事業期間	平成30年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業	きっかけづくり	マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	安城市子ども発達支援センターの設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようにします。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるように、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度 決算額	平成30年度 決算額	平成31年度 予算額
トータルコスト		0	30,590	99,114
事業費	事業費	0	23,030	87,774
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	0	23,030	87,774
	人件費計	0	7,560	11,340
	正規（人）	0.00	1.20	1.80
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】		子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
修繕実施件数	件	0.00 0.00	20.00 9.00	20.00 0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む) 件数	件	0.00 0.00	10.00 1.00	10.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	市の施設であり管理を行う必要があります		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	市民に安心安全に利用してもらうため施設の適切な管理が必要です		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	支障なく施設の管理を行うことができます		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	施設規模に応じた適切な管理事業を行っています		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	平成30年7月の開所後、発達相談支援室、やまびこルーム、サルビア学園、地域交流図書コーナーを多くの市民が利用しています。引き続き、市民が快適に利用できる適切な施設運用を行うと共に、特に乳幼児の利用が多いことから、安全面に十分配慮した施設管理に努めていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1 / 2）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

所属長名 都築里美
担当者 岡田賀子
電話番号 0566-77-7796

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	008	子ども発達相談支援事業			
事業期間	平成30年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的／政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法				
備考					

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園・幼稚園へ出向いての訪問相談、集団指導
事務内容	各相談・教室事業（発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会（親子教室）、ペアレントプログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室）の実施継続

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		0	133,975	144,185
事業費		0	52,075	62,285
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	18,085	21,000
	一般財源	0	33,990	41,285
人件費計		0	81,900	81,900
	正規（人）	0.00	13.00	13.00
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】		発達相談1,464件 就学相談 91人 訪問相談 102回 障害児（特定）相談支援事業 3,705件 1歳6か月事後指導会47回、ペアレントプログラム9名、ソーシャルスキルトレーニング教室6名	就学相談 訪問相談 障害児（特定）相談支援事業 1歳6か月事後指導会 ペアレントプログラム教室 ソーシャルスキルトレーニング教室

事務事業評価シート（2 / 2）

2 頁

令和元年 8月16日
17時27分30秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
教室内容の満足度	%	0.00 0.00	90.00 100.00	90.00 0.00
教室参加後変化ありの割合	%	0.00 0.00	80.00 83.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
理由	新しい取り組みで、初年度は市が実施しました。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	市民ニーズは充分にあります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	目標に対し、順調に進んでいます。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいます。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	環境変化に応じた事業を実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	専門職による18歳までの発達相談を子ども発達支援センターに統合し、更に医師の助言が受けられる体制を整え相談支援機能を高めました。今後は、内部及び外部機関と連携し、子ども発達支援センターを核とした円滑な支援体制を推進します。また、これまで支援の少なかった発達障害への支援事業であるペアレントプログラムとソーシャルスキルトレーニング教室を新たに実施しました。ペアレントプログラムは外部講師へ委託、適切な参加人数が10名程度の点で効率性に課題があります。次年度は今年度講師資格を取得した職員が関係各課及び児童福祉サービス事業所等の職員と協力して行い、外部関係機関で一貫した支援を提供できるよう展開していきます。ソーシャルスキルトレーニング教室は小学校低学年を対象に行いましたが、次年度は支援の必要性が高まる小学校高学年を対象に行う予定です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価

所属 0001231530 子ども発達支援課療育係

事務事業 02481 やまびこルーム事業

所属長名 都築里美

担当者 中根百合子

電話番号 0566-77-7912

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	003	やまびこルーム事業			
事業期間	平成3年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業	きっかけづくり	マニフェスト	○	地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	児童福祉法、知的障害者福祉法				
備考					

【事業分析】

対象	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、
目的	適切な援助・指導を受けられます。
手段	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導（1～3歳程度の乳幼児、0～5歳の未歩行児及び重症心身障害児）、就園後の療育支援、親子行事（クリスマス会、お楽しみ会など）

【コスト】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	決算額	決算額	予算額
トータルコスト	46,872	42,290	49,156
事業費	21,672	17,090	23,956
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	21,672	17,090	23,956
人件費計	25,200	25,200	25,200
正規（人）	4.00	4.00	4.00
その他経費	0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	集団療育・親子遊びの実施回数 577回	集団療育・親子遊びの実施回数 672回	集団療育・親子遊びを実施します。
	専門相談（発達・言語相談 計475回）	専門相談（発達・言語相談 計208回）	

事務事業評価シート（2 / 2）

2 頁
令和元年 8月16日
17時28分34秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
療育訓練参加者数	人	200.00 258.00	200.00 190.00	200.00 0.00
療育訓練参加者数／療育訓練希望者数	%	100.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00
療育内容に対する満足度	人	0.00 0.00	80.00 100.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
理由	早期療養が必要なため市で実施しています		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	早期療養が必要な子どもは一定数存在します		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	1
理由	療育相談・支援を希望される方は全て応じています		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	参加人数に応じてクラス編成し、効率的に実施しています		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	必要な療育相談・支援を実施しています		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	心身に何らかの問題や障害を持つ子とその親の療育相談及び集団・療育指導を行っています。子ども発達支援センターあんステップの開所に併せてグループ室を増設し、要支援児童の増加への対応と療育の質の向上に努めました。外国人の要支援児童も増えており、コミュニケーションが十分にとれない中で適切な支援を行う仕組みづくりが必要となっています。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

1頁
令和元年 8月16日
17時29分41秒

評価年度 平成30年度 進捗区分 2次評価 所属長名 都築里美
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係 担当者 中谷則子
事務事業 02480 サルビア学園事業 電話番号 0566-77-7797

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	002	サルビア学園事業			
事業期間	昭和50年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業	きっかけづくり	マニフェスト	○	地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	知的障害のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養う
手段	【児童発達支援事業】知的障害のある幼児を日々保護者のもとから通園し、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適應できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など

【コスト】

（単位：千円）

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		121,534	125,643	131,259
事業費	事業費	58,534	56,343	55,659
	国庫支出金	19,355	0	0
	県支出金	9,678	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	5,324	56,343	55,659
	一般財源	24,177	0	0
	人件費計	63,000	69,300	75,600
	正規（人）	10.00	11.00	12.00
その他経費		0	0	0

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
【事務事業活動実績】	4月49人（新入20人） 途中入園 3人 年間実人数 52人 移行・卒園児 31人	4月47人（新入26人） 途中入園 5人 年間実人数 52人 以降・卒園児 18人 保育所等訪問支援 申込2件	4月51人（新入17人） 保育所等訪問支援 申込累計3件

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 平成30年度 進捗区分 2 次評価
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度
サルビア学園入所児童数	人	0.00 0.00	40.00 47.80	50.00 0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	0.00 0.00	0.00 0.00	3.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		2
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
理由		実情に即した適切な支援を実施する必要があります				
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
			3	市民ニーズはない又は不明である		
理由		支援の必要な子どもは一定数存在します				
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		1
			2	目標を下回る進捗状況である		
			3	進捗はかなり遅れている		
理由		支援の必要な子どもを受け入れています				
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
理由		事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運用に努めています				
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由		法令に基づいて実施しています				

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (400文字)	子ども発達支援センターの開所に伴い、定員を40人から50人に変更し支援を必要とする児童の増加に対応しました。 また、新規に保育所等訪問支援事業を開始、2件の申込を受け、今年度は契約に向け関係機関と調整を行いました。 今後は、実践と検証を重ねて円滑な事業運営を継続して行う仕組みを作る必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。